

應じないが他の形式で従業員全般に亘り幾分の増給することに内定してゐたさうである。

今回の罷業は談笑俱樂部幹部としては『尙早』なりと云ふので最初は出来得る限り制止する手段を執つてゐたが勢の向ふ所遂に罷業に立至つたので夕刻に至つて幹部の連々は全部行を晦し従業員は個々に俱樂部本部をはじめ所々に會合協議を凝した結果事茲に至つては一日丈の罷業に止めて黙す可きでないこと云ふ事に略々一致したらしく午後九時頃から活動を始め數隊に分れて従業員の戸別訪問を行ひ『引續き出ぬ事に定めた』と極力結束を固めにかゝつてゐた。

併し會社の切崩し運動も仲々盛んで同夜東明車庫では運轉手十名車掌二名驛掌四名が明廿六日から出勤の旨申込み尼ヶ崎車庫でも多數出勤の申込あり全従業員の三分の一は出勤するものとの確信を持つてゐる」と會社側では云つて居たが兎も角明二十六日も罷業か混沌として豫測は出来なかつたのである。

尙此争議に勤しては同業なる西部労働組合所屬の大阪市電従業員が場合に依つては之に同情して何事かを行らうと申出て居るし外に日本労働總同盟でも廿五日朝から多數の應援隊が出かけて聲援を與へてゐたし青木の俱樂部へは同日午後八時總同盟神戸聯合會の堀尾川等數名の者が詰め掛け盛に氣焰を擧げたので御影署では之が歸宅を命じ又同日午前同俱樂部來て『裏切者を殿れ』などと旺んに激烈な言葉を吐いてゐた所の東明車庫所屬の三好川添及野田車庫所屬の大山外一名の四人は御影署の檢束する所となつた。

斯うして混沌と不安の中に二十五日は明けたが會社側では昨日以來従業員の行動については何とも豫想がつかかなかつたので已に持久戰の用意をし盛んに従業員の狩出しに努めると同時に嘗て運轉の經驗ある事務員其他を臨時乗務員に採用するのみならず已に他へ轉職してゐる者までも引戻して來ると云つてゐた。

方従業員側はと云ふと俱樂部幹部の意嚮としては示威の目的は廿五日一日の罷業で充分達成したのだから此上二日も三日も罷業を續ける事は却つて市民の反感を買ふとて一日だけとし廿六日からは一先づ一同出勤して尙會社で要求を容れぬとなれば再び機を見て罷業を行らうと云ふのであつた。であるから俱樂部幹部及會社側其他觀測は大體に於いて大罷業は廿五日を以つて終りを告げ廿六日には相當の出勤者を見るだらうと云ふ事に一致してゐた。

所が二十六日も大罷業は引續き行はれて會社が前夜來必死の狩出しも効を奏せず出勤者は前日よりも減つた様を前夜で昨夜會社が自働車で狩出しの際は出勤豫約済の者も殆ど三四十名にも及んでゐたが朝出勤時刻になつても一切姿を現はさず午前十一時までに出勤した者は僅に三十名ばかりで而も其顔觸は前日の出た者とは大差なく新に出勤した者は數名に過ぎなかつた。

そこで、社は前日の如く監督見習等約百八名を二回に交替せしめ辛うじて連結車二十一輛單車四輛を六分乃至十五分毎に發車する一面電氣部員其他をして車掌代理並に主要停留所の驛掌に代らしめてゐたが尙